
月ノ影

kurohyou1125

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月ノ影

【Nコード】

N0264Q

【作者名】

kurohyou1125

【あらすじ】

僕の知る現実は壊された。一人の少女と蝕と言われる存在によって・・・。

接触（前書き）

小説を書くのは初めてですがごく穴だらけですが読んでくれた人の想像力を広げる元になれば幸いです。

接触

「序章」

PM10時36分、八雲高校二年C組教室前廊下。月明かりに照らされて彼女はその場に立っていた。そして僕はというと腰を抜きし倒れこんでいた。なぜこんなことになったのかすぐには理解できなかったからだ。なぜなら僕が知る常識という世界がひっくり返されてしまったからだ。この一人の少女によって。

「なあ、話し長くね？」

「あと少しだから我慢しろよ」

親友の豊がいつまで経っても終わらない校長の話に痺れを切らして不機嫌になっていた。今日は7月21日、終業式。つまり明日から夏休みに入るわけだ。なので校長が長々と休みの間に問題を起こさないようにと何度も注意をマイクで呼びかけている。

五分後、ようやく話が終わり解散になった。

「はーやっと終わったな」

「だな。さっさと教室に戻ろう」

豊と休みの間なにをするか話をしながら自分たちの教室を目指して廊下を歩いていると前から一人の女の子が歩いてきた。その子が目の前に来るまで僕は見とれてしまっていた。その子の容姿は背はあまり高くもないものの黒髪のロングで肌が白く花蓮であった。だがそれで見とれていたわけでもない。しかし、次に予想もしないことがおきた。彼女が避けずにぶつかってきたのだ。ふらつき倒れかけたのですぐに手を出してその体を支えた。

「・・・・・・・・」

「だ、大丈夫!？」

彼女は僕に支えられた状態でこちらの顔を表情ひとつ変えず見つめてきた。

「な、なにか!？」

「・・・・・・・・!!」

次の瞬間、僕の腕を激しく振りほどいてそのまま廊下を何事もなかったように去っていった。

「え・・・・気に触ったかな・・・・」

「あゝあ休み前から運が無かったな」

あの子はね〜と豊が両手をあげてため息をついている。

「しってんの？」

「え!!知らないの大将!？」

豊が本当に信じられないという顔で僕を見てきた。

「・・・・・・・・」

「ひゃ〜ダメだよ。女子はチェック入れなきゃ!？」

「で何年？」

彼女の去って行った廊下を見ながら聞いた。

「チェック話はスルー!?!・・・・ま、いいけどな!一年だよ。」

豊は開き直ったようにしゃべり始めた。

「一年?いままで見たことなかったけど？」

「詳しくは知らないけど長期の休みを取ってたらしいぞ?つい最近登校してきたらしいけどさつきみたいに人との接触を拒否てるみたいで悪い意味で噂になってるぞ。」

気難しそうな顔をしながらそう言った。

「名前は？」

意味はなかった。ただ聞いておきたかった。

「え〜と確か・・・月宮玲子だったかな？」

「月宮玲子・・・」

名前を聞いて何かしら耽っている

「・・・狙ってんの？」

と豊がとんでもないこと聞いてきた。

「なんでそうなる？」

「いや〜なんだか考え込んでる見たいだし〜」

「んなわけないだろ？馬鹿馬鹿しい」

本当か〜？と言わんばかりの目でこっちを見てきた。

「それより時間」

「時間？」

「LHR始まるぞ」

そろそろ戻らないと帰りのLHRが始まってしまふ。僕たちの担任は少しの遅れにもとても厳しい。

「さて、そろそろ戻るか」

「お、おい！！待てよ！！俺だけあの鬼の世話にするきか！？」

「なら急げよ」

そして僕達は自分たちの教室を目指して歩き始めた。

だけど僕は彼女の目を見たときから何かしらの違和感があった。一目ぼれ？違う。何か別の物を・・・まあ今いい。どうせ些細なことだ家に帰る頃には忘れてしまっているだろう。そのような考えを巡らせながら僕は自分の教室のドアを引いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0264q/>

月ノ影

2011年1月8日11時49分発行